

大泉JCT周辺における掘進の状況について

大泉側本線トンネル(南行)の掘進では、引き続き、気泡を用いた掘進を行い、安心確保および安全な掘進方法の確認のため、次の項目についてモニタリングを行いながら、掘進していきます。

(安心確保のためのモニタリング)

- ✓ 河川や既存ボーリング孔における漏気発生有無の確認、および発生時の環境測定
- ✓ 沿線における地下室や井戸の酸素濃度測定

(安全な掘進方法の確認のためのモニタリング)

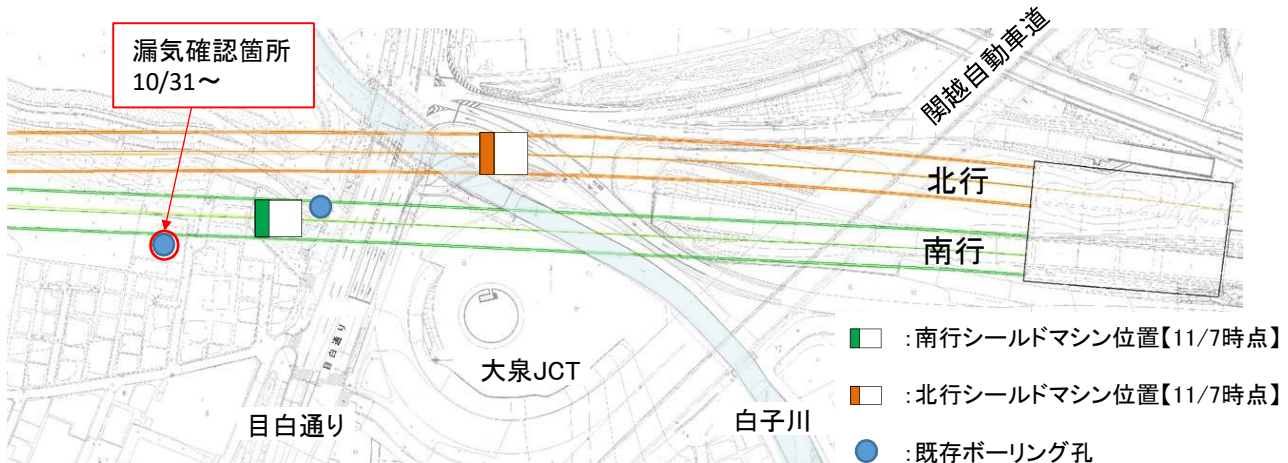
- ✓ 地表面変動の確認
- ✓ 掘削土の性状の確認

<2019/10/17公表資料抜粋>

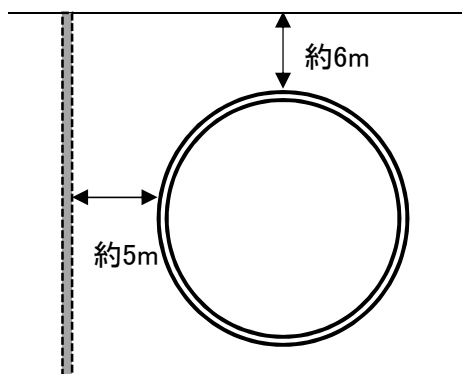
令和元年10月31日より、既存ボーリング孔において微少な漏気が見られております。これは、シールド工事で用いる空気のごく一部が地中から漏出しているものと考えられます。

水質調査等の環境測定を実施しており、調査結果についてはとりまとめ後にあらためてお知らせいたします。

位置図



漏気確認箇所(イメージ)



既存ボーリング孔

孔内状況



※参考値として実施している簡易測定による酸素濃度は、水面直上において20.2%~20.9%であり、周辺環境に影響はないと考えられます。
なお、漏気している空気量は微少であり採取できておりませんが、今後採取できた場合には気泡自体の空気成分の酸素濃度を測定することとしています。